

地元生徒入学「不可欠だ」

開拓地の学校

苫前商の未来は

上

には理由がある。
「母校が閉校の危機であり、来年度の入学人数が少なく、募集停止になってしまう」

学校祭に集まった保護者らに状況を説明すると、こう訴えかけた。

「生徒の目線で伝えたい」
そんな気持ちでこもった7分超のスピーチが、体育館に響き渡った。

ここは、道北部の苫前町にある苫前中学校。10月7日、マイクを握った大元祐征(20)は町内にある苫前商業高校の卒業生だ。

この日、学校祭が開かれていた中学校に大元が訪れたの

「苫商に地元の生徒が入ることでも今後苫商で学ぶ環境を継続できるし、町と一体となって様々な挑戦ができる」

次第にうなずくようになった聴衆からは、スピーチが終わると大きな拍手がわき起こった。

札幌市手稲区に実家がある大元は中学時代から、商業の

勉強に興味があった。親元を離れて一人暮らしもしたかった。個室の寮がある苫商への入学を決めた。

今の自分の原点

とはいえ、苫前町なんてこれまで名前すら聞いたことがない。門限や入浴時間といった寮のルールも、当初はわからずに戸惑った。

助けてくれたのは、寮の先

輩たちだった。休日になると、遊びや昼ご飯に連れ出してくれた。バスに乗って遠出することもあった。

卒業した同級生は7人。教師との距離は近く、わからないことがあれば、机に向かい合って、つきっきりで教えてくれた。おかげで簿記、ビジネス文書、情報処理といった資格を在学中に取得することができた。

人数が少ない分、学校行事では生徒一人ひとりが意見を出し合うことが求められる。生徒会に所属していた大元は、企画立案から携わった学校祭で、自ら主導して地域を

「苫商での日々は、自分を変えてくれた忘れられない時間。いまの自分につながっているし、いまの自分をつくってくれた」

そんな感謝も込めて、苫前

区で、苫商での勤務は初めてとなる。いわゆる「よそ者」だ。

佐藤は赴任すると、周辺自治体だけでなく札幌や旭川の中学校を回り、苫商への入学を呼びかけた。しっかりと情報発信できた充実感があった。しかし、今春の新入生は6人にとどまった。

道立高校は、2年連続で入学人数が1桁になると閉校対象となる。「イエローカード」をもらった形だ。「たくさん回ったから、生徒が来るだろう」と思っていた。考えが甘かった」と佐藤は振り返る。

苫商はこれまで、地域と密着した少人数教育を売りに、

欠けていた視点

スピーチを終えた大元を、

苫商で校長を務める佐藤恵一(58)が来賓席で迎え入れた。その後、大元と食事をともにした佐藤は「卒業生だからこそ伝えられるスピーチ。言葉に力があつた」とたたえた。

「生徒の目線で伝えたい」と言っていた大元の言葉と重なるようだった。

今回のスピーチを提案したのは佐藤だ。

佐藤は赴任すると、周辺自治体だけでなく札幌や旭川の中学校を回り、苫商への入学を呼びかけた。しっかりと情報発信できた充実感があった。しかし、今春の新入生は6人にとどまった。

道立高校は、2年連続で入学人数が1桁になると閉校対象となる。「イエローカード」をもらった形だ。「たくさん回ったから、生徒が来るだろう」と思っていた。考えが甘かった」と佐藤は振り返る。

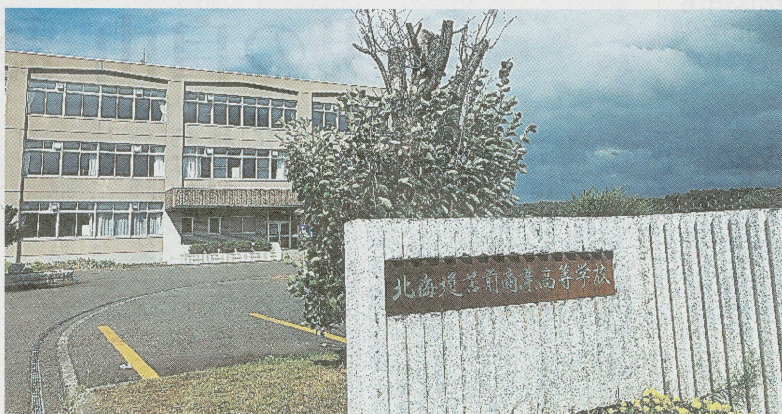
来春の入学に向けた道立高校の願書配布が8日、始まった。閉校の危機にさらされる苫前商業高校をめぐる関係者の思いを、2回にわたってお伝えします。

敬称略
(岡戸佑樹)



苫前商業高校の存続を訴え、中学校の学園祭でスピーチした大元祐征さん。10月7日、苫前町の苫前中学校

中学の学校祭 高校存続へ訴え



苫前商業高校＝8月26日、苫前町



地元中学校の学園祭で、販売コーナーを設ける苫前商業高校の生徒ら。10月7日、苫前町